



ときめく郷ごころ

経験をいかして

青木です。10月に地域おこし協力隊として着任して約3か月が経過しました。ありがたいことにたくさんの方との出会いがあり、東京にいたことを忘れてしまいうようなほど濃厚な毎日をご過ごしています。

ありふれた感想かもしれませんが、移り住んで、大山町の食材の豊富さやぜいたくさにあらためて驚かされました。各戸で作られている自家製味噌や漬物などの食品や、編み物・縫い物などの手仕事のクオリティはとても高いです。

皆さん普通のことのように作られています。集落やグループで豆腐を定期的につけて食べるとか、都会の暮らしではまず考えられません。

料理も裁縫も苦手な私は、地域の文化もまだまだわからず、学ぶことだらけです。大山町版「すてきな奥さん」的なマニュアル本があるのなら、ぜひとも欲しい青木ですが、私ならではの地域おこし、みなさんを巻き込んで少しずつ前進したいと思います。

(活動報告)

学生時代に演劇部に所属していたことから、中山小学校の学習発表会に、6年生劇の演技指導者(一)として参



▲真剣に私の話を聞いてくれました(中山小で)

加させていただきました。

初日の練習では、棒立ちでセリフを読み上げるだけの状態。さあどうしよう？私は演じる側ではなく指導する側、しかも相手は子どもたち。どうすれば理解してもらえるか戸惑うことも多々ありました。ですが先生方はやはりプロです。つたない私の説明を、子どもたちへわかりやすく的確に伝えてくださいました。

短い練習期間だったにもかかわらず、先生方の熱血指導と子どもたちのひたむきながんばりで本番は大成功！うわさには聞いていましたが、さすが本番に強い6年生。リーダーとして、最高学年の役割を果たそうとする姿はとても頼もしく感じました。

今回、子どもたちと関わりを持つことができ、演技指導に少しでも役に立てたことはとてもうれしく、また貴重な経験となりました。

このたび、職場で出会った地元の人々と手話サークルを立ち上げました。私自身手話をするのは約15年ぶり。手の動きも言葉もすっかり忘れていて、何度も聞き返しながら手話をしています。サークルメンバーは、筆談や口話ではなく、手話でコミュニケーションが取れることをとても喜んでくれています。

手話も「ことば」です。文法や方言も当然存在します。語学学校があるように手話も学べる場があってもいい。挨拶だけでもいいから覚えてもらえたら、というのが立ち上げの理由です。そもそも手話を始めたきっかけは「面白そうだったから」。実際やってみると、連想ゲームのように会話のできる楽しさにはまりました。難しいことはさておき、少しでも興味のある方、気軽に青木へお声かけください。

中山手話サークル

◆活動日 第2・4土曜

10時30分～11時30分

◆場所 中山公民館

◆企画情報課 未来づくり戦略室

☎0859-54-5202